

共生社会創造委員会担当副理事長兼専務理事方針

可児将太郎

2016年より日本では「地域共生社会」の実現に向け様々な取り組みが行われています。しかし、ハード面については着実に進んでいるものの、ソフト面に関しては理解が不十分なため取り組みが遅れているのが現状です。だからこそ、我々は社会が大きな転機に直面し、様々な面で変革期にあるからこそ、全ての社会的障壁を取り除き、誰もが人間らしく幸せに暮らせる社会づくりを目指す必要があると思います。そうすることで、誰一人取り残されることのない、幸せな社会へと進化を遂げられると考えます。

2027年中津川市はリニア中央新幹線の岐阜県駅開業、開通に伴い、まちや生活が大きく変化していくことが予測されます。この千載一遇の機会を活かし、社会的障壁に対しハード面、ソフト面の両面を兼ね備えた、全ての人が生きがいを持てるまちづくりを行政、市民共に行っていく必要があると考えます。そのために我々は、このまちに住む人と共に、障がいなどの社会的課題に対して知識を深め、正しく理解する中で、他国や他自治体などの先進的な取り組みと将来の中津川市を照らし合わせ、中津川市に合った具体的なイメージをまちづくりに活かしていくことが重要だと考えます。そうすることで、このまちに住む人や今後このまちを訪れる人にとっても人やまちの温かみを感じられるまちとなり、ひいては中津川市が全ての人にとって幸せなまちになると信じます。

近年、中津川青年会議所では多様性のある組織の確立を目指し、組織改革に取り組んでいます。今後70周年を目前に控え更なる発展を目指すためには、個々のスキルや能力・経験を最大限に発揮し、青年会議所としてだけでなく中津川市にもインパクトを与えられる組織でなければなりません。だからこそ、多様な価値観や違いをより良い変化に変えるために一人ひとりが今できることを模索し、実際に行動に移していくことが重要です。そうすることで、メンバーだけでなく中津川市にとっても価値ある組織へと躍進できると考えます。

私が考える青年会議所の魅力は人との出会いだと思います。この人との出会いから様々な経験や知識、また活力さえも得ることができると考えます。私は副理事長として、メンバーがその機会を活かせるように巻き込み、自身の成長に繋げていただけるように尽力して参ります。また、専務理事として、理事長が思い描く組織の実現のために、全力で理事長を支えると共に、メンバー一人ひとりが如何なく個性を発揮し、青年会議所運動が最大化できるように、有益な情報を常に提供することで、メンバーの成長に寄与できるように組織運営に邁進して参ります。

<共生社会創造委員会>

社会的課題に対して正しく理解を深める中で、市民と共に中津川市の共生社会の実現に向け考え、意識を変えていくことで、誰にとっても中津川市が幸せなまちとなるよう事業展開をしていただきたい。

<事務局特別委員会>

青年会議所の窓口としてメンバーに迅速且つ正確な情報提供を行うと共に、中津川青年会議所の価値が高められるよう、活動や運動の発信に努めていただきたい。そして、全メンバーで出向者を支えられるよう設営を行っていただきたい。